

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

中の坊瑞苑におけるボイラー更新事業

排出削減事業者名：株式会社中の坊 印

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社 印

その他関連事業者名： 印

申請日： 年 月 日

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社中の坊
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	中の坊 瑞苑
住所	兵庫県神戸市北区有馬町808番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

中の坊瑞苑におけるボイラー更新事業

### 2.2 排出削減事業の目的

本事業は、A重油焚きボイラー2台を都市ガス焚き高効率ボイラー3台に変更するものである。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

中の坊瑞苑において、既設のA重油焚きボイラー2台を都市ガス焚きの高効率ボイラー3台に更新する。これによりエネルギー効率を改善し、さらに燃料をA重油からより低炭素の都市ガスへ切り替えることにより、CO2排出量を削減する。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

特になし。

## 3 排出削減活動期間

### 3.1 プロジェクト開始日

2012年1月16日

### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年 4月 1日 ～ 2018年 9月 30日

## 4 温室効果ガス排出削減量

### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

### 4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

#### 4.2.1 活動量・原単位

活動量、原単位は採用しない。

#### 4.2.2 活動量の採用根拠

活動量、原単位は採用しない。

### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、株式会社中の坊におけるボイラー設備及びボイラー設備から蒸気の供給を受ける設備である。対象となる設備の詳細は 2.6 「排出削減事業に関わる設備（詳細）」に示す。

## 5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある 場合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後の都市ガスの使用量	Nm3	2013 年度：202,185.1 2014 年度：192,182.2 2015 年度：185,829.8 2016 年度：175,356.0 2017 年度：110,077.5 2018 年度：71,820.4	燃料販売会社からの請求書により毎月確認、記録する。標準状態への換算係数 1.0448 で除する。※係数は大阪ガス提供の値。	変更なし
$\epsilon_{Pj}$	更新後のボイラー効率	%	86.4	カタログ値（高位発熱量時）	変更なし
$\epsilon_{BL}$	更新前のボイラー効率	%	78.9	カタログ値（高位発熱量時）	変更なし
$CF_{fuel, BL}$	事業実施前の燃料（A重油）の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO2/GJ	2013 年度～2018 年度：0.0708	デフォルト値	変更なし
$CF_{fuel, Pj}$	事業実施後の燃料（都市ガス）の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO2/GJ	2013 年度～2018 年度：0.0513	デフォルト値	変更なし
$HV_{fuel, Pj}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/ Nm3	2013 年度：0.0451 2014 年度：0.0451 2015 年度：0.045 2016 年度：0.045 2017 年度～2018 年度：0.0451	デフォルト値	変更なし

## 7 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

注) 複数の方法論を採用している場合は、方法論ごとに排出削減量の計算結果を記入すること。

### 7.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	202,185.1	0.0451	0.0513	467.8
2014 年度	192,182.2	0.0451	0.0513	444.6
2015 年度	185,829.8	0.045	0.0513	429.0
2016 年度	175,356.0	0.045	0.0513	404.8
2017 年度	110,077.5	0.0451	0.0513	254.7
2018 年度	71,820.4	0.0451	0.0513	166.2
単位	Nm3	GJ/ Nm3	tCO2/GJ	tCO2
EM <sub>PJ</sub>				2,167.1

### 7.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	9,985.3	—	0.0708	707.0
2014 年度	9,491.3	—	0.0708	672.0
2015 年度	9,157.2	—	0.0708	648.3
2016 年度	8,641.1	—	0.0708	611.8
2017 年度	5,436.4	—	0.0708	384.9
2018 年度	3,547.0	—	0.0708	251.1
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
EM <sub>BL</sub>				3,275.1

### 7.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0

2018年度	0		0
	LE		0

#### 7.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	<i>EM<sub>BL</sub></i>	3,275.1
事業実施後排出量	(7.1)	<i>EM<sub>PJ</sub></i>	2,167.1
リーケージ排出量	(7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量		<i>ER</i>	1,108

## 8 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

	モニタリング期間 ( 2013年 4月 1日 ~ 2018年 9月 30日)							
	エネルギー使用量			熱量換算 (GJ)		原油換算 (kl)		
	単位	ベースライン	実績	ベースライン	実績	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
A重油	Kl	1,181.5		46,195.3		1,191.8		1,191.8
都市ガス	千 N m <sup>3</sup>		937.5		42,185.3		1,088.4	- 1,088.4

省エネルギー量 (原油換算) = 103.4 kl

## 9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 ( 年 月 日 ~ 年 月 日)		
	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
	単位 (実績)	(実績)	(実績)